

9. 生物資源科学部

I	生物資源科学部の教育目的と特徴	9-2
II	分析項目ごとの水準の判断	9-3
	分析項目 I 教育の実施体制	9-3
	分析項目 II 教育内容	9-5
	分析項目 III 教育方法	9-8
	分析項目 IV 学業の成果	9-16
	分析項目 V 進路・就職の状況	9-23
III	質の向上度の判断	9-26

I 生物資源科学部の教育目的と特徴

生物資源科学部は旧農学部と旧理学部の一部を改組し、人口急増に伴う食糧危機、資源の枯渇、自然環境や地域社会の破壊等の難問を解決する学部として、平成7年10月に設置した。島根大学が掲げた中期目標において、「学部段階では幅広い教養と基礎的な専門知識を身につけ、課題探求能力と問題解決能力を涵養するとともに、修士課程では応用力を養う」と定めたことを踏まえて、次の通り教育目的を設定し、教育の特徴を打ち出している。

1. 【教育目的】

- (1) 21世紀における地球規模の課題、特に人間活動と自然環境を調和させる科学技術を“ライフを総合的に科学する”立場から探求し、豊かな地域社会・国際社会の創造に貢献できる人材を育成する。
- (2) 幅広い教養と生物・生命・生産・生態・環境に関する基礎的な専門知識とともに、倫理観や豊かな人間性と国際的な視野を兼ね備えた人材を育成する。
- (3) 自然環境と生物及び人間の活動を調和させる科学技術に関する理解を深め、課題に関する強い探求心と高い実践力を培うことに重点を置き、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。

2. 【特徴】

- (1) 生物資源科学部では、「生物、生命、生産、生態、環境、生活を包含するライフ」すなわち人間社会と多様で広範な関係を有する生物・生命を、広い意味での資源として捉えて、総合的に教育研究する。
- (2) 5学科体制で、学生定員は200名、18年度、19年度ともに4.8倍と高い志願倍率であった。3年次編入学定員は20名である。

3. 【想定する関係者とその期待】

- (1) 学生からは、学部教育を通じて専門的知識や豊かな人間性を身に付けることに期待を持たれており、卒業生の約40%が大学院修士課程へ進学し、約60%は専門性を活かした分野や公務員として就職している。就職率が高いことが週刊「読売ウィークリー」の就職パワーのある大学学部上位リストに掲載された。
- (2) 企業採用者からは、専門的知識や豊かな人間性を身に付けた発展性のある人材の育成に期待を求められている。
- (3) 地域の自治体と地域社会からは、地域特産品の栽培技術と加工、豊富で多様な自然環境の保全、過疎や高齢化等の深刻な問題を抱える中山間地域への取り組みに関わる人材の育成に期待を持たれている。

II 分析項目ごとの水準の判断

分析項目 I 教育の実施体制

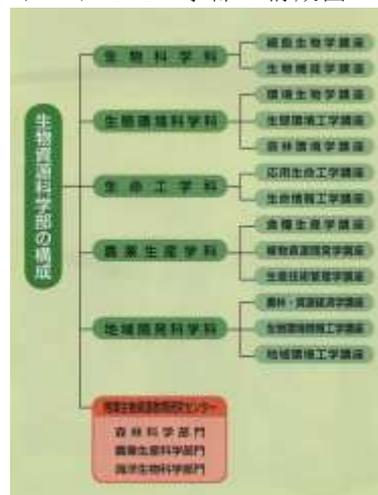
(1) 観点ごとの分析

観点 基本的組織の編成

(観点に係る状況)

生物資源科学部は新構想の学部として平成7年度に創設し、生物科学科、生態環境科学科、生命工学科、農業生産学科、地域開発科学科と附属生物資源教育研究センターの5学科(13講座)・1附属施設(3部門)の構成(データ1-1)で、学生定員を220名(内3年次編入20名)と設定して教育研究を行っている(データ1-2)。

データ 1-1 学部の構成図



(出典：学部パンフレット)

データ1-2 生物資源科学部の学科・講座編成と学生定員

学科名	講座・部門名	教員数	学生定員	
			一般	編入
生物科学科	細胞生物学	6	30	20
	生物機能学	7		
生態環境科学科	環境生物学	8	45	
	生態環境工学	6		
	森林環境学	5		
生命工学科	応用生命工学	5	40	
	生命情報工学	6		
農業生産学科	食糧生産学	6	30	
	植物資源開発学	5		
	生産技術管理学	5		
地域開発科学科	農林・資源経済学	9	55	
	生物環境情報工学	5		
	地域環境工学	7		
附属生物資源教育研究センター	森林科学	3		
	農業生産科学	2		
	海洋生物科学	2		
		87	200	20

(出典：学部事務部資料及び学部パンフレットより抜粋・作成)

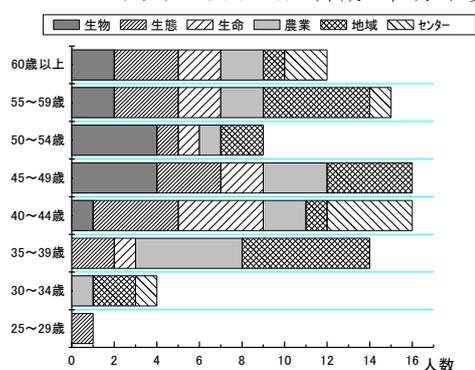
教員の配置については人件費管理委員会を組織し、人件費を抑制しつつ、適正な教員配置を目指すとともに(データ1-3)、助教の新規採用枠(6名)を設定し、教員組織の若返りを図った。その結果、教員数は87名となり、その年齢構成は適正な形となりつつある(データ1-4)。

データ1-3 年度別・職種別教員配置可能数

年度	教授	准教授(助教授)			計
		講師	助教(助手)		
16	45	35	5	9	94
17	43	37	3	9	92
18	39	38	1	12	90
19	40	37	1	14	92
20	38	37	1	15	91
21	38	37	1	15	91

(出典：平成17年7月27日教授会資料)

データ1-4 教員の年齢構成(平成19年4月1日現在)

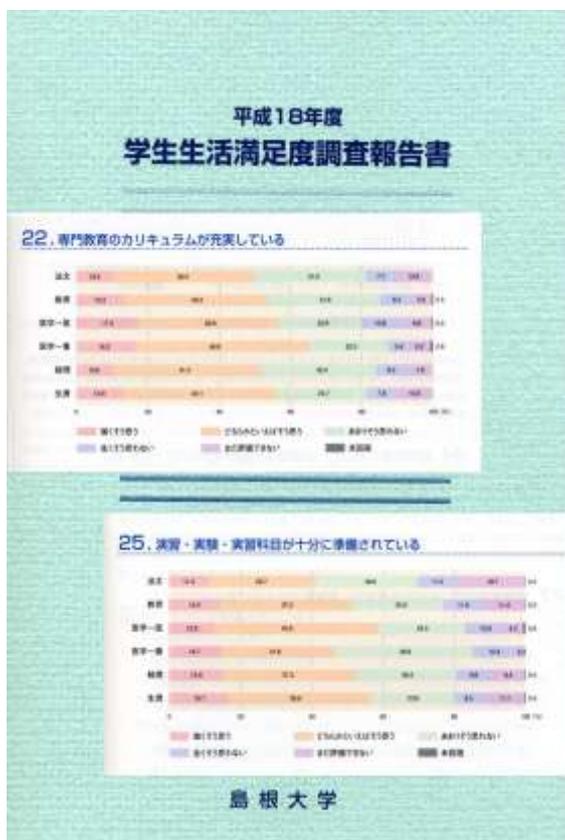


観点 教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制

(観点に係る状況)

授業の内容や方法の改善を図るための全学的な体制は整っており、学生による「授業評価アンケート」を実施し、平成16, 17年度教育方法改善企画報告書、2006年度島根大学教育開発センター年報に結果を公表している。本学部の教育方法等改善委員会 (FD委員会) では教育内容等の研究や研修の取組について議論を行い、学生に高い評価を受けた授業を公開し、授業内容改善に反映させる取組を展開している。授業科目のシラバス記載の充実・徹底を図った(データ1-5)。

データ1-6 平成18年度学生生活満足度調査報告書



(出典：平成18年度学生生活満足度調査報告書より抜粋)

一部変更している。また、法人化に伴う人件費の削減に対応するために退職教員の後任補充が出来ない状況にあるが、教員の意欲低下を避けるためにも内部昇任枠設定を行い、教員の若返りを図るために助教の新規採用枠を設定している。

地域開発科学科では JABEE 認証を取得し、学生教育に成果を上げている。また、学生の評価の高い授業を公開し、教員の教育方法の改善に役立てている。

以上の点から教育の実施体制の取り組みは期待される水準を上回ると判断した。

データ1-5 シラバス記載状況

各学科のシラバス記載状況 2005年
シラバス記載状況(生物科学科)

	専門基礎教育科目	専門教育科目	修士課程	修士特別コース
講義数	5	70	32	3
シラバス記載	5	44	19	2
記載率(%)	100.0	62.9	59.4	66.7

シラバス記載状況(生態環境科学科)

	専門基礎教育科目	専門教育科目	修士課程	修士特別コース
講義数	4	45	29	11
シラバス記載	4	36	27	6
記載率(%)	100.0	80.0	93.1	54.5

シラバス記載状況(生命工学科)

	専門基礎教育科目	専門教育科目	修士課程	修士特別コース
講義数	4	58	19	16
シラバス記載	4	45	15	9
記載率(%)	100.0	77.6	78.9	56.3

シラバス記載状況(農業生産学科)

	専門基礎教育科目	専門教育科目	修士課程	修士特別コース
講義数	3	52	25	14
シラバス記載	3	43	24	12
記載率(%)	100.0	82.7	96.0	85.7

シラバス記載状況(地域開発科学科)

	専門基礎教育科目	専門教育科目	修士課程	修士特別コース
講義数	15	125	40	14
シラバス記載	15	125	40	12
記載率(%)	100.0	100.0	100.0	85.7

出典:FD委員会議事録

カリキュラム改革委員会では、地域開発科学科で JABEE 認証取得を目指し、対応カリキュラムの検討を行った。また、フィールド教育関連科目のカリキュラムを新設することを検討した。(カリキュラム改革委員会議事録)

これらの取り組みによって、生物資源科学部では学生が学びたい分野の勉強ができる、専門教科のカリキュラムが充実している、演習・実験・実習科目が十分に準備されている等の項目で学生の満足度が高くなっている(データ1-6)。

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由) 学部組織は発足以来大きな変更はないが、教育・研究体制を学科・講座単位で絶えず見直しながら教育研究を行っており、講座の名称を

分析項目Ⅱ 教育内容

(1) 観点ごとの分析

観点 教育課程の編成

(観点に係る状況)

教育目的達成のため、平成18年度にエッセンシャルミニマムを策定し、卒業までに習得すべき到達目標を明確にした(資料2-1-1別添)。これに基づき、①教養～専門の段差のない体系的教育、②人文・社会科学を含む豊かな教養教育と、学科を越えた多様な専門知識の提供、③学生の探求心に基づく自発的学習の喚起と、外国語、コミュニケーション能力の養成、に重点を置いた教育課程を編成し、以下の授業配当を行って実質的、体系的な教育を実施している(資料2-1-2別添)。

初年次学生には、幅広い教養を目指した「基礎教育科目(外国語、健康科学、情報科学)」と「共通教養科目(人文、社会、自然科学に関する総合的科目)」を中心に据え、専門への入門としての「専門基礎科目」、専門への意欲を強化するセミナーや実験科目を加えて提供する。2、3年次には、教養科目を履修しつつ、講座分属により専門的な教育を実施する。専門教育では、探究心を培い外国語及びコミュニケーション能力を強化するため、セミナーや英語演習、実験科目等を体系的に配置して必修科目とする。同時に、多くの講義や生物資源教育研究センターによる実習、大学間連携によるフィールド演習等を選択科目とし、学生の自主的な学習の機会を広げている(データ2-1)。また、「推奨自由科目」等により、他学科、他学部の講義の受講を推奨すると共に(データ2-2)、嘱託講師による講義を多数開講して(資料2-1-3別添)幅広い専門知識を提供している。その結果、実習・演習や他学科等の講義の受講者は年を追って増加した(データ2-3)。最終年次は、未知の課題の探求に挑む学年と位置付け、卒業論文の作成に向けた少人数によるきめ細かな研究指導を行っている。

学生の子・復習時間を重視して1学期間に履修しうる科目の上限を22単位に定めたが、成績優秀者にはこの上限を外して、学習意欲を高めるようにも配慮している。

データ2-1 平成16～18年度 文部科学省「現代的教育ニーズ取組み支援プログラム—大学間連携によるフィールド教育体系の構築—」における本学部の参加者数

年度	里山フィールド 演習	果樹園芸の里 フィールド演習	里海フィールド 演習	計
平成17年	6	5	5	16
平成18年	7	7	6	20
計	13	12	11	36

(出典：文部科学省 現代的教育ニーズ取組み支援プログラム「大学間連携によるフィールド教育体系の構築」報告書より)

観点 学生や社会からの要請への対応

(観点に係る状況)

科目に対する学生の多様なニーズに対応して、平成16年4月に放送大学及び島根県立大学との間で単位互換制度を開始した。更に、平成17年2月には中国四国地区国公立大学フィールド演習(現代GP選定)(資料2-2-1別添)に参加し、大学相互間の単位互換制度により多くの参加者を得た(データ2-1)。また、ハローワーク、島根県、松江市等との連携によるインターンシップを整備し、平成18年度は20名が参加した(データ2-4)。

地域社会からの生産環境整備という要請に応じて、平成17年度より地域開発科学科工系のカリキュラム改革を実施し(データ2-5)、地域工学コースではJABEE教育プログラムに対応して技術士補の資格取得を可能にした。また、教育職員免許状や学芸員等の資格を取得できるプログラムを整えて(資料2-1-2別添)、社会並びに学生の要請に応じている。

学生の率直な意見や要望を把握するため、5,406名の学生を対象とした全学学生生活満足度調査を実施し、平成19年3月に報告書に纏めた。教育内容、教育環境、生活支援、就職支援等に関する意見や満足度、62項目に亘る大学への希望や学生意識を問い、学生からの率直な意見が聴取できた。現在、教育改善の基礎資料として積極的に検討しつつある。

平成13年入学生から成績優秀者認定や早期卒業制度を実施している。平成18年度には3年で早期卒業した学生が1名出た。

データ2-4 インターンシップ参加者数

	ハローワーク	農 業	生物資源 科学部	島根県・松江市	その他	合 計
平成16年度	0	0	0	0	8	8
平成17年度	4	0	3	1	3	11
平成18年度	11	2	3	3	1	20

(出典：学生支援課資料から集計)

データ2-5 地域開発科学科の改組について

地域開発科学科の改組について

旧講座名	新講座名	新コース名	移行年度	内容	変更点	PRポイント
農林システム工学	生物環境情報工学	生物システム工学・環境資源工学・地域工学	平成17年度	生物環境情報工学講座(旧:農林システム工学講座)と地域環境工学講座によって3つの教育コース(「生物システム工学コース」、「環境資源工学コース」、「地域工学コース」)を開設し、それぞれ独立したカリキュラムを作成した。	専門科目では廃止科目=2科目、新設科目=10科目、名称変更科目=4科目、必修と選択の変更=2科目、教養科目では、専門基礎教育科目として、プログラミング概論を新設し、必修とした。また、生物システム工学コースでは、専門基礎教育科目において、「細胞学」、「遺伝学」、「発生生物学」、「生理学」、「物理化学」、「有機化学Ⅰ」、「生物化学Ⅰ」、「分子生物学Ⅰ」から5科目選択して履修することとした。	生物システム工学コースにおいては、生物の物理的な理解の前提となる生物科学の基礎知識を確実なものとするようにした。環境資源工学コースにおいては、地域の自然循環を構成する物理、化学、生物学に関する広範な基礎知識を習得させるものとした。地域工学コースにおいてはJABEE教育プログラムに対応するプログラムとした。
地域環境工学	地域環境工学					

(出典：地域開発科学科からの報告)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由) エssenシャルミニマムをもとに、1～4年次の一貫した教育体制を敷き、教養から専門まで体系的な教育課程を編成した。総合力、外国語能力、コミュニケーション能力、指導力の養成を期待する学生、父兄並びに社会の期待に応じて、教養教育では総合科目の充実を、専門教育ではセミナー、演習、実験等の必修科目と多種の選択科目の体系的な配置を行った。JABEE認定コース等の資格取得課程やインターンシップも整備した。多様な分野を学びたい学生の期待に応じて、大学相互間における単位互換制を制定し、多数の学生が受講した。学生の要求は「学生生活満足度調査」等により積極的に取り上げ、教育内容の改善に努めている。

分析項目Ⅲ 教育方法

(1) 観点ごとの分析

観点 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

(観点到に係る状況)

エssenシャルミニマムの策定(資料2-1-1別添)により学部、学科の教育において学生が習得する知識や能力とそれを涵養するための主要科目を明確にすると共に、その実質化のためにカリキュラム改革委員会が中心となり助教による授業開設、社会や学生のニーズに応えた授業科目への改編等、平成19年度の各学科、講座のカリキュラムの大幅な改正と充実に取り組んだ。専門教育科目の改正数は、生物科学科が5、生態環境科学科が18、生命工学科が17、農業生産学科が26、地域開発科学科が12である。

授業形態に関しては実験、実習の割合を高め、実際に体験することで講義の内容を深く理解させるように取り組んでいる(データ3-1)。また、教育目的の達成のために授業形態や学習指導法に合わせた教室の整備(データ3-2)と配当(資料3-1-1別添)を行っている。

データ3-1 平成19年度 生物資源科学部各学科開講の専門科目

学 科	講 座	開講科目数				
		講 義	演 習	実験・実習	卒論等	合 計
生物科学科	細胞生物学 生物機能学	35	0	11	1	46
生態環境科学科	環境生物学	11	5	6	1	23
	生態環境工学	12	4	4	1	21
	森林環境学	18	4	10	1	33
生命工学科	応用生命工学 生命情報工学	29	6	13	1	49
農業生産学科	食糧生産学 植物資源開発学 生産技術管理学	17	2	20	1	42
地域開発科学科	農林・資源経済学	24	6	1	3	34
	生物環境情報工学	18	1	1	2	47
	地域環境工学	39	2	8	2	51

(出典：生物資源科学部履修の手引きより抜粋・作成)

データ 3-2 講義室の収容人数，稼働率及び設備・備品

講義室名	収容人数	稼働率(%)	空調	LAN端子	フラインド	スクリーン	プロジェクター		テレビビデオ	放送設備	
							OHP	液晶			
101 講義室	160	52	○	○	○	○	○	○	○	○	
セミナー1	12	30	○	○	○						
セミナー2	20	37	○	○	○						
セミナー3	24	59	○	○	○	1					
201 講義室	72	57	○	○	○	○	2	○	2	○	
202 講義室	97	57	○	○	○	○		○		○	
203 講義室	60	33	○	○	○	○		4		2	アンプ マイク 2
204 講義室	60	65	○	○	○	○					
205 講義室	30	74	○	○	○	○					
206 講義室	60	67	○	○	○	○					
207 セミナー室	16	41	○	○	○	○					
208 講義室	63	67	○	○	○	○		○			
209 セミナー室	24	50	○	○	○	○					
210 セミナー室	24	37	○	○	○	○					
211 講義室	75	59	○	○	○	○	○		○		
マルチメディア演習室1	66	59	○	67	○	○	○	○		○	
マルチメディア演習室2	28	33	○	29	○	○	○	○			
マルチメディア演習室3	16	11	○	17	○	○					
視聴覚教室	46	2	○	○		○	○	○	○	○	

※101 講義室には，スクリーンの他にマルチビジョンあり

(出典：学部事務部資料及び教室配当表より抜粋・作成)

主要授業科目は，予習，復習等の授業時間外の学習時間が十分取れるよう，またオフィスアワーを利用した学習指導も受けることのできるよう，学部の専任教員による定期開講としている。また，実験・実習については複数教員による指導，班分けによる少人数指導，習熟度別指導，ティーチングアシスタントの補助（資料 A1-2006 データ分析集：No.13.2 TA・RA 採用状況）により教育効果を高める等のきめ細やかな学習指導に取り組んでいる。

各学科では2，3年次の講座配属後，さらに研究室に配属してコミュニケーション力，探求力，実践力，解析力等の向上を目指した対話型の個別指導による少人数教育を実施している（データ 3-3）。

学生の主体的な予習・復習を促し，授業の達成目標を明確にするため，教員は試験を含む15回の授業内容を記載したシラバス（資料 3-1-2 別添）を作成し，オリエンテーションや授業開始時点にはその説明を行い，学生の7割が履修，予習，復習の参考として活用している（データ 3-4）。

データ 3-3 生物資源科学部講座分属要項

Ⅳ. 生物資源科学部講座分属要項 (平成19年度入学生用)

(趣旨)

- 講座への学生の分属は、この要項により分属する。
- 講座への分属学年及び分属する各講座の受入学生数は、次のとおりとする。

ただし、生物科学科及び生命工学科については、講座への分属は行わない。

学 科 名	入学定員	講 座 名	分属学年	受入学生数
生態環境科学科	45名	環 境 生 物 学	2年次	19名
		生 態 環 境 工 学		12名
		森 林 環 境 学		14名
農業生産学科	30名	食 糧 生 産 学	3年次	12名
		植 物 資 源 関 連 学		12名
		生 産 技 術 管 理 学		6名
地域開発科学科	55名	農 林 ・ 資 源 経 済 学	2年次	23名
		生 物 環 境 情 報 工 学	3年次	14名
		地 域 環 境 工 学		18名

〈分属希望講座の願い出〉

- 生態環境科学科の学生は、1年次の1月末日までに、農業生産学科の学生は、2年次の1月末日までに、地域開発科学科の農林・資源経済学講座を希望する学生は、1年次の2月末日までに、同学科の生物環境情報工学講座又は地域環境工学講座を希望する学生は3年次の10月末日までに、所定の様式により希望する所属学科の講座を生物資源科学部長に願い出なければならない。
- 前項による願い出の方法は、各学科の定めるところによる。

(講座への分属方法)

- 各学科においては、選考により各講座に分属させる。

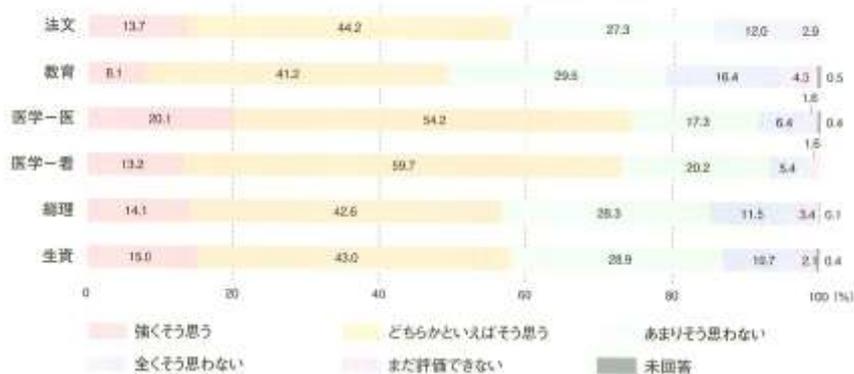
(分属講座の決定)

- 各学科で分属決定した者については、生態環境科学科の学生は1年次の2月末日までに、農業生産学科の学生は2年次の2月末日までに、地域開発科学科農林・資源経済学講座の学生は1年次の3月末日までに、同学科生物環境情報工学講座又は地域環境工学講座の学生は3年次の11月末日までに、学生委員会の議を経て、掲示により発表する。

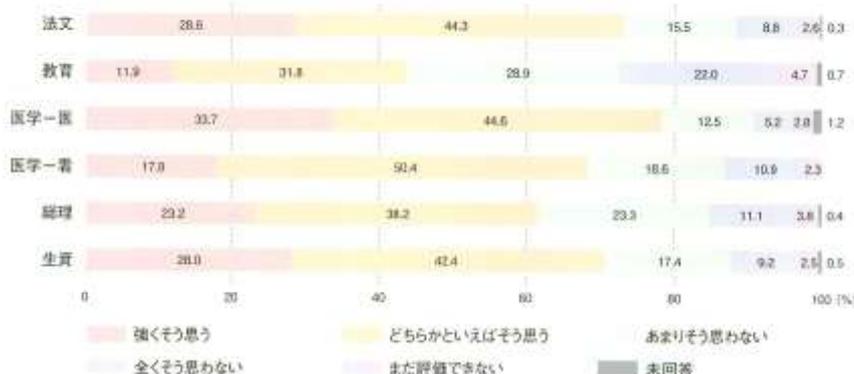
(出典：平成19年度生物資源科学部履修の手引)

データ 3-4 シラバスの整備状況, シラバスの利用状況

29. シラバスが整備されている



30. シラバスを利用している



(出典：平成18年度学生生活満足度調査報告書から抜粋)

観点 主体的な学習を促す取組

(観点に係る状況)

主体的な学習を促すための動機付けとして、新入生及び編入生に対して全学、学部、さらに、学科別オリエンテーションを開催し(データ 3-5)、授業科目の履修が戸惑いなくできるよう、大学院生や上級生による個別履修相談や履修モデル(資料 3-1-3 別添)の提示を行っている。

また、成績評価基準の明記とオフィスアワーの設定により厳正な成績評価ときめ細やかな学習指導を受けることができることを学生に周知している。

データ 3-5 生物科学科における新入生へのガイダンス (一部抜粋)

-何をどのように学ぶのか-

生物科学科ガイダンス資料
2007年4月9日

- ・生物学科の講座について
生物科学科には細胞生物学講座と生物機能学講座の二つの講座がありますが、カリキュラムは同じですので、講座を意識して履修する必要はありません。
- 卒業要件に関わる単位について**
- ・卒業に必要な単位について
授業を履修し、試験に合格すると単位が得られます。卒業に必要な単位(要卒単位)を4年間で全て修得すると卒業することができます。
- ・履修しなければならない科目
基礎教育科目、共通教養科目、専門基礎教育科目、専門教育科目
原則として90分の講義を15回受講し、合格して2単位。語学は同じ時間で1単位。実験/実習は2コマ(90分×2)で2単位。
- ・各科目の必要単位数

基礎教育科目	外国語	8
	健康・スポーツ	3
	情報	3
共通教養科目		14
専門基礎教育科目		12
選択科目		10
専門教育科目	必修科目	24
	選択必修科目	0
	選択科目	48
自由科目		6
合計		128

- ・外国語
頑張って一年次に開講される科目は全て修得してください
外国語能力試験の単位認定
外国語能力試験の成績等を申請する事により、外国語科目(英語、独語、仏語、中国語、韓国・朝鮮語)の単位認定ができます。(学生関係規則集の55-60ページを参照)
新入生の場合、この申請は学部別オリエンテーションの際に行ってください。在学中は各学期の履修手続き期間に行ってください。
- ・共通教養科目
主題別科目の自然科学系は生物学を履修しないでください。
総合科目は履修資格・開講時期等に注意し、履修して下さい。
教員免許状を取得したい場合は、前期に開講される「日本国憲法」を2単位履修して下さい。
(手引き25ページ、授業科目一覧の25ページを参照)
- ・専門基礎教育科目
生物科学科開講の科目を6単位修得するように(3科目修得すればよい:手引き59ページ)と書いてありますが、生物科学科で開講される5科目は全て履修・修得してください。
- ・専門教育科目
1年次に生物科学科で開講される専門科目の講義:生物科学セミナーⅠ(必修)、基礎生物科学実験(必修)、系統分類学(選択)

(出典:生物科学科ガイダンス資料)

講座分属が必要な学科では、各講座の教育科目，教員担当分野，研究内容，卒業後の進路について説明し，講座選択を支援する取組みを行っている。また，学年担任制度を設け，学科及び講座の定員に応じて1，2名の学年担当教員を決め，学生との連絡を密にするとともに，学生数名に対して1名の指導教員を配置して，学生の学習，生活全般にわたる助言指導を行っている（データ 3-6）。

データ 3-6 指導教員が行う指導助言の参考例

「指導教員のでびき」目次

火をつける人、火を守る人に	教育・学生担当学長 坂本 一光
学生指導について	
1. 指導教員に求められる役割・指導内容	1
2. 指導教員が行う指導助言の参考例	2
3. 学科例・年次別懇談会	6
4. 就職指導等について	10
5. 留学生に対する指導	15
6. 学生情報の入手方法	17
学生との対応について	
島根大学保健管理センター助教授 山本 大介	22
教職員の立場からの学生への接し方	
東京工業大学保健管理センター助教授 斎藤寛司	32
参考資料	
学生が行う手続き等について	45
島根大学での学生サポート体制について	54
島根大学における学生に対する指導助言等の制度実施の指針	56
島根大学学生の厚生補償に関する規則	57
大学における学生生活の充実方策について — 一学生の立場に立った大学づくりを目指して — (2000年6月)	59

2. 指導教員が行う助言指導の参考例

① 修学関係

内 容	関連部署
① 入学前のオリエンテーションに関する事 <ul style="list-style-type: none"> • 新入生が適切に学修を行えるよう，カリキュラム等をわかりやすく説明し，そのほか必要指導を行う。 • 授業科目区分による履修のしかたや年間の授業計画について助言をする。 • 受講した大学生活を送ることができるよう，学生生活全般にわたっての指導・助言を行う。 	学務課 学生支援課
② 授業科目の履修登録に関する事 <ul style="list-style-type: none"> • 学修目標等から定められている履修科目の登録の上限について，具体的な例を挙げながらわかりやすく説明する。 • 必修科目，選択科目及び自由科目について，履修計画に合った教員が行えるよう指導・助言を行う。その際，1週間（月一食）の登録バランスを考慮する。 • Webによる履修手続きがスムーズに行えるよう指導・助言を行う。 • 学生の進路あるいは希望に合った履修について適切な助言をする。 	学務課 島根大学 IT 学修情報システム
③ 履修状況に関する事 <ul style="list-style-type: none"> • 授業の出欠状況を把握し，適切な指導を行う。 • 当該授業科目の担当教員は，授業の出欠が即座に学生の履修を強力指導教員に連絡する。 • 単位の履修状況を把握する。 • 成績が顕著に対して，学習意欲が回復するよう指導・助言を行う。 • 授業中退席を繰り返した学生との連絡を密にし，学生本人の進路志向を確認し，指導・助言を行う。 	学務課 学生支援課
④ 学生の身辺活動に関する事 (転学先，転学先，転学先-転学先) (退学，休学，復学，退学等)	学務課 学生支援課

内 容	関連部署
① 資格取得に関する事 <ul style="list-style-type: none"> • 各授業科目の取得を希望する学生の進路に応じて，必要な授業科目の履修について適切な指導を行う。 • 各授業科目の取得に関する単位取得状況を把握する。 	学務課 学生支援課
② 身体に障害がある学生に対する学修上の支援に関する事 <ul style="list-style-type: none"> • 身体に障害がある学生に対して，障害の程度を把握し，学務課及び学生支援課と連携を密にし，状況に応じた適切な指導・助言を行う。 • 通行性の確保の場合，その機会を把握する。 	学務課 学生支援課
③ その他指導事項に関する事 <ul style="list-style-type: none"> • 他国（外国）の大学を含む，の授業科目の履修及び特許した単位取得等について，学生の意向に基づき，必要な手続き等の指導・助言を行う。 • その他学務課制及び履修計画に規定されていない履修事項についての質問や相談について，適切な説明又は指導を行う。 	学務課

② 学生生活関係

内 容	関連部署
① 社会人としての実態・マナーに関する事 <ul style="list-style-type: none"> • 経営電話（授業時間及び試験時間等における電話 OFF，使用場所等） • キャンパス内での喫煙 • プリ分別処理（分別の徹底，投げ捨て禁止） • 喫煙（喫煙，喫煙のポイ捨て禁止等） • 飲酒（イッキ飲み，強飲の徹底等） • 交通ルール（道交規則，自転車の横断歩道 二人乗り，スピード違反等） • 喫煙，暴力行為等の反社会的行動（降し物の漏れ等） • 喫煙，喫煙（「目上の人への敬意」） • 携帯電話（必要に応じて携帯の持ち出し制限等） 	学生支援課
② 経済的困難者への対応に関する事 <ul style="list-style-type: none"> • 授業料免除及び施設費免除（授業料の支払い困難者へ制度の説明と学生支援課への連携） • 各授業科目制（修学費・生活費等の滞りなく授業の進捗と学生支援課への連携） 	学生支援課

学生の授業時間外の学習時間を保証し、授業の事前予習や授業内容の復習を促すため、平成15年度入学生から授業科目の履修登録の単位数の上限を、前期もしくは後期の履修期間で22又は28単位とした（データ3-7）。これにより必要な学習時間を確保した履修科目の決定等の指導を行っている。

学部では前年度の成績評価に基づき成績優秀者と認定された者は、翌年度に履修登録の上限を超えて授業科目の登録ができる制度も導入した。また、3年間成績優秀者と認定した学生には、早期卒業（データ3-8）や大学院修士課程へ飛び級で進学できる制度も導入した。

データ3-7 履修科目の登録の上限

生物資源科学部における履修科目の登録の上限に関する要項	3. 島根大学生物資源科学部における履修科目の登録の上限に関する要項
	（平成16年4月21日生物資源科学部教授会決定）
	（趣旨）
	第1条 この要項は、島根大学生物資源科学部履修細則第2条の規定に基づき、島根大学生物資源科学部（以下「本学部」という。）において1学期間に履修できる単位数の上限に関し、必要な事項を定める。
	（対象科目）
	第2条 履修科目の登録（以下「履修登録」という。）の上限の対象となる授業科目は、本学部の課程修了の要件として履修する授業科目とする。ただし、集中講義として開講する授業科目は上限単位数の対象としない。
	（上限単位数）
	第3条 授業科目の履修登録は、1学期間において22単位を上限とする。ただし、地域開発科学科については、1学期間において28単位を上限とする。
	（履修登録単位数の特例）
	第4条 前条の規定にかかわらず、次の各号の一に該当する者については、履修登録の上限単位数を超えて授業科目を登録することができる。
	一 成績優秀者 二 3年次編入学者 三 その他学生委員会において認めた者
	2 成績優秀者として認定された者については、本人の申請に基づき、翌年度に履修登録の上限単位数を超えて授業科目を登録することができるものとする。
（成績優秀者）	
第5条 前条の成績優秀者は、次の各号に掲げる要件を満たしていなければならない。	
一 過去1年間に第2条に定める対象科目を32単位以上修得していること。ただし、地域開発科学科については、40単位以上修得していること。	
二 前号で修得した授業科目の評価について90%以上が優であること。	
2 学生委員会は、各学年終了時に成績優秀者を認定し該当者に通知するものとする。	
（履修指導）	
第6条 第4条の規定により履修登録単位数の特例を認められた者が履修登録上限単位数を超えて授業科目を履修するに当たっては、学生委員会規則第5条に定める指導教員が、履修授業科目、単位数等適切な履修指導を行うものとする。	
附 則	
この要項は、平成16年4月1日から実施し、平成16年度入学生から適用する。	

（出典：平成19年度生物資源科学部履修の手引より）

データ3-8 早期卒業制度

早期卒業制度

生物資源科学部

時期	項目	該当機関等	認定要件等
1年次 3月	成績優秀者の審査・認定 成績優秀者認定通知 早期卒業資格認定申請	学生委員会 教務課→該当学生 早期卒業希望者	要卒業単位32単位以上取得 優の評価90%以上 申請資格:1年次成績優秀者 提出書類:申請書 成績証明書
2年次 4月	早期卒業資格の審査 審査結果報告 早期卒業資格の認定 早期卒業資格の認定通知 履修計画の作成 履修登録上限超過等申請 2年次前期履修	学生委員会 学生委員会→教授会 教授会 教務課→該当学生 該当学生→教務課	申請資格:1年次成績優秀者 提出書類:申請書・成績証明書 書類審査(提出書類)・面接 履修上の特例措置 (上限除外, 年次制限除外) 指導教官による履修指導 申請書の提出
10月	履修登録上限超過等申請 2年次後期履修	該当学生→教務課	申請書の提出 指導教官による履修指導
3月	成績優秀者の審査・認定 成績優秀者認定通知 卒業論文等履修資格審査 審査結果報告 卒業論文等履修資格認定 卒業論文等履修資格認定通知	学生委員会 教務課→該当学生 学生委員会 学生委員会→教授会 教授会 教務課→該当学生	要卒業単位32単位以上取得 優の評価90%以上 ・在学期間2年以上 ・要卒業単位100単位以上取得 (生命工学科は要卒業単位90単位以上取得) ・2年次成績優秀者認定
3年次 4月	履修登録上限超過等申請 3年次前期履修	該当学生→教務課	申請書の提出 指導教官の履修指導(卒論等履修) (上限除外, 年次制限除外, 卒論選択制)
10月	履修登録上限超過等申請 3年次後期履修	該当学生→教務課	申請書の提出 履修指導
3月 (第4年 次9月)	卒業判定 審査結果報告 卒業認定 卒業認定通知 卒業	学生委員会 学生委員会→教授会 教授会 教務課→該当学生	・在学期間3年以上 ・要卒業単位128単位以上取得 ・優の評価90%以上(取得要卒業単位) (生物科学科は, 学科会議にて可否を決定) 掲示等

(出典:平成19年度島根大学生物資源科学部履修の手引より)

また、学部成績の優秀者には大学院修士課程への学力試験を免除した推薦入試制度を制定している(データ 3-9)。このように成績優秀者に特別に配慮した制度を整備し主体的な学習を一層促す取り組みを行っている。

データ 3-9 成績優秀者に対する大学院の推薦入試

平成20年度 島根大学大学院生物資源科学研究科(修士課程) 推薦入学学生募集要項		
1 専攻、講座及び募集人員		
専攻	講座	募集人員
生態環境科学	環境生物学、生態環境工学、森林環境学	若干名
生命工学	応用生命工学、生命情報工学	若干名
農業生産学	食糧生産学、植物資源開発学、生産技術管理学	若干名
地域開発科学	農林・資源経済学、生物環境情報工学、地域環境工学	若干名
※ 生物科学専攻は、推薦入学による学生募集を行いません。		
2 出願資格		
出願できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とし、成績証明書等において総修得科目の60%以上で優の評価を得ている者を資格者とします。		
(1) 大学を卒業した者及び平成20年3月31日までに卒業見込みの者		
(2) 学校教育法第68条の2第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成20年3月31日までに授与される見込みの者 [大学評価・学位授与機構から学位を授与された者及び見込みの者をいいます。]		
(3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び平成20年3月31日までに修了見込みの者		
(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成20年3月31日までに修了見込みの者		
(5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成20年3月31日までに修了見込みの者		
(6) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成20年3月31日までに修了見込みの者		
(7) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号) [文部科学大臣の指定による、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者とは次の者をいいます。旧大学名による大学、旧高等師範学校・学校専攻科、高等師範学校・女子高等師範学校、药業大学校、药業医科大学校、水産大学校、海上保安大学校、職業訓練大学校、気象大学校などの卒業(修了)者]		
(注) 出願資格について不明な場合は、事前に島根大学 教育・学生支援部 学務課(電話 0852-32-6042)に照会してください。		
1		

(出典：平成20年度春季入学 大学院生物資源科学研究科(修士課程)学生募集要項より抜粋)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準にある

(判断理由) 講義、演習、実験、実習等を適切に組み合わせている。また、5名の助教による新たな授業開講も取り入れ、学部・学科のエッセンシャルミニマムの実質化に向けたカリキュラムの整備を行い、授業形態の組み合わせと学習指導法の工夫に努めた。オリエンテーションの実施によるモデルカリキュラムの提示、指導教員制度の導入による履修指導等のきめ細やかな学習指導、或いは履修上限の設定やオフィスアワーの設定等による授業時間外の学習時間の確保による学生の主体的な学習を促す取り組みをした。また、学生の主体的な学習の成果を評価するために、早期卒業制度も導入し、平成18年度に1名を送り出した。以上により、期待される水準にあると判断した。

分析項目Ⅳ 学業の成果

(1) 観点ごとの分析

観点 学生が身に付けた学力や資質・能力

(観点に係る状況)

(データ4-1)は、平成19年3月時点における学年別、学科別修得単位数の平均であり、学年進行に伴って学生が身に付けた学力や資質・能力が着実に増加していることを表わしている。

データ4-1 学年別、学科別修得単位数の平均

平成18年度入学生	優	良	可	修得単位数	
2年生	平均	平均	平均	平均	最大値
生物科学科	19.5	12.3	7.6	38.6	45
生態環境科学科	22.6	13.2	6.3	40.9	47
生命工学科	23.4	11.3	7.7	41.0	48
農業生産学科	16.4	10.4	10.5	36.4	43
地域開発科学科	19.8	14.2	10.5	44.0	55

平成16年度入学生	優	良	可	修得単位数	
4年生	平均	平均	平均	平均	最大値
生物科学科	64.2	23.8	13.4	101.4	129
生態環境科学科	67.9	33.3	15.4	116.6	141
生命工学科	69.8	28.9	16.5	115.4	138
農業生産学科	60.5	25.9	19.6	106.0	149
地域開発科学科	59.8	34.0	24.0	117.8	148

平成17年度入学生	優	良	可	修得単位数	
3年生	平均	平均	平均	平均	最大値
生物科学科	40.8	21.1	17.0	78.9	97
生態環境科学科	48.2	22.8	11.9	82.9	97
生命工学科	49.3	22.9	13.3	85.5	102
農業生産学科	38.7	23.0	15.9	77.6	94
地域開発科学科	31.3	23.7	20.9	75.9	104

平成15年度 以前入学生	優	良	可	修得単位数	
	平均	平均	平均	平均	最大値
生物科学科	51.4	31.2	23.6	106.2	126
生態環境科学科	37.9	29.5	33.2	100.6	138
生命工学科	47.2	28.9	31.8	108.1	163
農業生産学科	42.2	27.6	29.2	104.3	134
地域開発科学科	32.6	26.5	32.9	92.1	127

(出典：生物資源科学部だより Vol. 6 2007.07 発行)

4年次在籍者に対する卒業者の割合は、平成16年度から概ね75%前後であり、ほぼ一定した水準を維持している。(データ4-2)卒業に必要な単位数は128単位であるが、個別の授業科目の単位認定については、卒業生の質的保証の観点から、成績評価を客観的かつ厳格な基準によって行っている(データ4-3~4-7)。そして、成績評価基準は全ての学生に周知するために授業科目ごとにシラバス上で明文化する取組みを継続しており、シラバスの整備率は平成16年度が96.5%で、平成18年度が96.6%と高い水準を維持している。

データ 4-2 4年次在籍者に対する卒業者の推移

学 科	分 類	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
生物科学科	①在籍者	46	39	39
	②卒業者	37	28	32
	②/① (%)	80.4	71.8	82.1
生態環境科学科	①在籍者	63	71	72
	②卒業者	51	50	53
	②/① (%)	81.0	71.8	73.6
生命工学科	①在籍者	54	49	58
	②卒業者	45	35	41
	②/① (%)	83.3	71.4	70.7
農業生産学科	①在籍者	40	41	45
	②卒業者	32	31	35
	②/① (%)	80.0	75.6	77.8
地域開発科学科	①在籍者	76	76	75
	②卒業者	57	59	62
	②/① (%)	75.0	77.6	82.7
合 計	①在籍者	279	276	289
	②卒業者	222	203	223
	②/① (%)	79.6	73.6	77.2

(出典：学務課資料より集計)

データ 4-3 成績の評価

第30条 成績の評価は、試験等の成績に平常成績及び出席状況等を考慮し、優、良、可及び不可とし、優、良及び可を合格とする。

2 評価の基準については、別に定める。

(出典：島根大学学則第30条)

データ 4-4 成績の評価基準

1 学部及び大学院（法務研究科を除く。）の成績の評価は、試験等の成績に平常成績及び出席状況等を考慮し、次に掲げる基準に基づき、評価は優、良、可及び不可とし、優、良及び可を合格とする。

優 (100点満点法による100点から80点まで)

良 (100点満点法による79点から70点まで)

可 (100点満点法による69点から60点まで)

不可 (100点満点法による59点以下)

(出典：島根大学における成績の評価に関する取扱要項第1項)

データ 4-5 シラバスに記載された講義科目の成績評価基準の例（生物科学科の例）

生 物 科 学 科	定期的に行う小テスト(40点)と定期試験(2/3以上出席が条件)60点の合計点で評価します。
	単位の認定基準は、次のとおりとします。 毎回、出席票を兼ねた小テスト(10分間テスト)を行い、5段階(A=3, B=2.5, C=2, D=1, 無回答など=0点:合計40点満点)で評価します。また、9回以上出席しないと期末試験(合計60点満点)を受験できません。 ・小テストの成績(合計60点)及び期末試験(40点満点)で採点し、その合計点を評価します。 ・15分以上の遅刻は欠席扱いとします。
	授業中小テストを参考(30%), 期末試験(70%)
	単位の認定は次のような基準で行います。 1. 出席点20点, 筆記試験80点の100点満点で評価します。 2. 出席点は減点方式とし、欠席1回につき5点を減点します。 3. 講義時数の1/3以上欠席した場合、受験資格はありません。
	単位の認定基準は次の通りとします。 1. 期末試験70点, 課題30点の100点満点で評価します。合わせて6割以上を合格とします。 2. 三分の一以上欠席した者は、期末試験を受けることができません。
	期末テストを含めて11回以上出席した者を成績評価の対象とします。 適宜おこなう小テストを40点, 学期末試験を60点とし、計100点満点で以下のように評価します。 100~80点:優, 79~70点:良, 69~60点:可, 60点未満:不可, 11回未満の出席:未修
	単位認定基準は下記のとおりです。 出席点25点, 演習問題の評価25点, 期末試験50点の合計100点満点で評価します。 なお、理由のいかんに関わらず5回以上欠席した場合には、自動的に期末試験の受験資格を失うものとします。また、遅刻は1/2出席として取り扱います。

(出典: キャンパス WEB 2007 シラバスより抜粋)

データ 4-6 シラバスに記載された実験・実習・演習・セミナー科目の成績評価基準の例（生物科学科の例）

生 物 科 学 科	毎テーマごとに、担当教員が出席とレポートを総合して採点します。 各テーマのレポート成績が5割以上で、かつ合計した成績が6割以上を合格とします。
	1. 各回レポート提出。 2. 採点は各テーマ10点。総計点=10点×実施回数 3. 実験・実習の性格上、原則として遅刻・欠席は認めない。 4. 提出レポートの採点の総点が総計点の6割以上を合格とする。
	出席状況や課題の到達度を総合的に判断して評価します。各ローテーションごとに単位が認定されていることが、半期全体の単位認定の必須条件となります。
	出席状況や「授業の内容」の1から4の到達度を総合的に判断して評価します。各担当教員ごとのセミナーに合格することが、半期全体の単位認定の必須条件となります。
	出席状況(討論への参加を含む)とレポート

(出典: キャンパス WEB 2007 シラバスより抜粋)

データ 4-7 卒業研究のプログラム、実施法、判定に関する判定基準（生物科学科の例）

学科	卒業研究のプログラム等の実施例	実施法、判定法の 具体的実施例	卒業研究の判定に関する具体的判断基準と実施例
生物科学科	4年次開始までに各指導教員との話し合いで卒論テーマを決定し、4月から研究を開始する。研究室ごとに行われるセミナーにおいて研究計画、実験結果の議論を行うとともに、関連分野の文献調査も実施する。12月ごろから実験結果のまとめを開始し、数度の改定を繰り返して翌年2月に卒業論文として完成させる。2月中旬には卒論発表会を行って研究結果を学科全体で広く議論し、卒業論文並びに研究、セミナーへの取組み状況と合わせて評価の対象とする。平成17年度よりビデオによる発表会の全記録を開始した。収録したビデオはDVD媒体にして図書室に配備し、常時学生に貸し出せるようにしている。その結果、発表者自身の自己研修だけでなく、次年度の学生が発表の参考にしたり、各研究室での研究内容を知る助けにしたりして、頻繁に利用されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・11月 研究室配属説明会 ・2月 配属先決定 ・4月卒業研究開始 ・2月上旬 卒論提出締切 全教員への縦覧開始 ・2月中旬 卒論発表会 成績判定会議 	<p>卒業研究発表会の直後に、学科教員全員の出席で開催する成績判定会議において、以下のポイントを評価し、総合的に判定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文：目的・方法の妥当性、結果の解析力、文章の論理性、研究背景の理解力 ・卒研発表会：発表の構成力、発表の準備度、質疑への応答 ・日常の研究、セミナーへの取組み：積極性、注意力、観察力

(出典：生物科学科からの報告)

また、平成16年度より、TOEIC等の学外機関が実施する外国語能力試験で一定の成績を取得した学生には、得点に応じた語学教育の単位を認定し、グローバルな統一試験において自己の語学力を点検するとともに継続的な語学学習を推奨する取組みを行っている（データ 4-8）。

データ 4-8 外国語能力試験単位認定一覧

認定時期	所属学科	学年	試験種別	成績等	認定授業科目名	単位数	評価
平成16年度 前期	生命工学科	2	TOEIC	700点	英語ⅠA	1	認定
					英語ⅠB	1	認定
平成16年度 前期	生命工学科	1	TOEFL	513点	英語ⅠA	1	認定
					英語ⅠB	1	認定
					英語ⅡA	1	認定
平成16年度 前期	生命工学科	3	TOEIC	615点	英語ⅡB	1	認定
					英語ⅠB	2	認定
平成16年度 前期	生態環境科学科	3	ドイツ語技能 検定試験	4級	ドイツ語ⅠGa	1	認定
					ドイツ語ⅠGb	1	認定
					ドイツ語ⅠLa	1	認定
					ドイツ語ⅠLb	1	認定
平成16年度 後期	生態環境科学科	1	TOEIC	525点	英語ⅠB	1	認定
平成16年度 後期	生命工学科	1	TOEIC	545点	英語ⅡA	1	認定
平成16年度 後期	生命工学科	1	TOEIC	660点	英語ⅠB	1	認定
					英語ⅡA	1	認定
					英語ⅡB	1	認定
					英語ⅢA	1	認定
					英語ⅢB	1	認定
平成16年度 後期	農業生産学科	1	TOEIC	660点	英語ⅠB	1	認定
					英語ⅡA	1	認定
					英語ⅡB	1	認定
					英語ⅢA	1	認定
					英語ⅢB	1	認定
平成17年度 前期	生物科学科	2	TOEIC	620点	英語ⅡB	1	認定
平成17年度 前期	生態環境科学科	2	TOEIC	720点	英語ⅡB	1	認定
					英語ⅢA	1	認定
					英語ⅢB	1	認定
					英語Ⅳ	1	認定
					英語Ⅳ	1	認定
平成17年度 前期	生態環境科学科	2	TOEIC	660点	英語ⅡB	1	認定
					英語ⅢA	1	認定
					英語ⅢB	1	認定
平成17年度 前期	生態環境科学科	1	TOEIC	655点	英語ⅠA	1	認定
					英語ⅠB	1	認定
					英語ⅡA	1	認定
					英語ⅡB	1	認定
					英語ⅢA	1	認定
					英語ⅢB	1	認定
平成17年度 前期	生態環境科学科	1	TOEIC	535点	英語ⅡA	1	認定
平成17年度 前期	生命工学科	2	TOEIC	630点	英語ⅡB	1	認定
平成17年度 前期	生命工学科	1	TOEIC	510点	英語ⅠA	1	認定
					英語ⅡA	1	認定
平成17年度 前期	農業生産学科	2	TOEIC	665点	英語ⅡB	1	認定
					英語ⅢA	1	認定
					英語ⅢB	1	認定
平成17年度 前期	農業生産学科	2	TOEIC	670点	英語ⅡB	1	認定
					英語ⅢA	1	認定
					英語ⅢB	1	認定
平成17年度 後期	生物科学科	2	ドイツ語技能 検定試験	4級	ドイツ語Ⅱ	1	優
平成18年度 前期	生物科学科	1	TOEIC	550点	英語ⅠA	1	優
					英語ⅡA	1	優
平成18年度 前期	生物科学科	1	TOEIC	530点	英語ⅠA	1	優
					英語ⅡA	1	優
平成18年度 前期	生態環境科学科	1	TOEIC	500点	英語ⅡA	1	優
平成18年度 前期	生命工学科	1	TOEIC	500点	英語ⅠA	1	優
					英語ⅡA	1	優
平成18年度 前期	生命工学科	1	TOEIC	525点	英語ⅠA	1	優
					英語ⅡA	1	優
平成18年度 前期	生命工学科	1	TOEIC	570点	英語ⅠA	1	優
					英語ⅡA	1	優
平成18年度 後期	生物科学科	1	TOEIC	535点	英語ⅡA	1	優
平成18年度 後期	生物科学科	1	TOEIC	510点	英語ⅡA	1	優
平成18年度 後期	生命工学科	1	TOEIC	685点	英語ⅠB	1	優
					英語ⅡB	1	優
					英語ⅢA	1	優
					英語ⅢB	1	優
平成18年度 後期	生命工学科	1	実用フランス語 技能検定試験	4級	フランス語Ⅱ	1	優
					フランス語Ⅱ	1	優

(出典：学務課資料より作成)

学生の取得した資格についてみると、各学科とも、理科の中学校一種と理科もしくは農業の高等学校一種の教員免許状を取得している。過去3年の傾向として年度ごとの取得者は30～40名であり、一定の水準を維持している（データ4-9）。

データ4-9 教員免許状取得者数

学 科	教員免許状の種類		平成16年度	平成17年度	平成18年度
生物科学科	中学校一種	理科	0	2	0
	高等学校一種	理科	5	10	3
		農業			
生態環境科学科	中学校一種	理科	0	3	2
	高等学校一種	理科	4	7	3
		農業	2	4	1
生命工学科	中学校一種	理科	0	0	0
	高等学校一種	理科	6	1	2
		農業			
農業生産学科	中学校一種	理科	0	0	0
	高等学校一種	理科	1	3	4
		農業	2	5	6
地域開発科学科	中学校一種	理科	0	0	3
	高等学校一種	理科	0	0	5
		農業	3	5	5
合 計	中学校一種	理科	0	5	5
	高等学校一種	理科	16	21	17
		農業	7	14	12

（出典：学務課資料より集計）

このほか、本学部における勉学の結果、各学科の専門教育に関連した、以下の様な各種資格を取得しており、資格取得者数も一定の水準を維持している（データ4-10）。また、地域開発科学科「地域工学コース」では、平成18年にJABEE認定を受けたことにより、このコースの卒業生は技術士補の資格が取得でき、技術士試験制度にあつては、一次試験合格者と同等であるとの質的保証（修得技術者）がなされている。

データ4-10 各種資格取得者数

資格取得の種類	対象学科	平成16年度	平成17年度	平成18年度
学芸員資格取得者	生物科学科 生態環境科学科	21	12	27
食品衛生管理者・監視員資格取得のための「食品衛生コース」の単位修得者	生命工学科	45	35	41
測量士補取得者	地域開発科学科 (地域環境工学講座)	22	19	22

（出典：学務課資料より集計）

観点 学業の成果に関する学生の評価

(観点に係る状況)

本学部においては、「I 生物資源科学部の教育目的と特徴, 想定する関係者とその期待」において述べた人材を養成する教育を行っており, こうした教育に関する卒業時の学生の評価は「平成18年度 学生生活満足度調査報告書」において概ね良好である(データ4-11, 4-12)。

データ4-11 「教育を受けて, 自分自身の学力・資質が十分に高められている」への回答

項目	強く思う	どちらかといえば思う	あまり思わない	全く思わない	まだ評価できない	未回答
法文	11.8	45.0	28.9	7.1	7.0	0.2
教育	7.6	46.5	28.9	7.8	9.0	0.2
医学-医	15.7	45.8	25.3	8.0	4.8	0.4
医学-看護	8.5	46.5	24.8	7.0	12.4	0.8
総合理工	8.9	42.2	31.6	8.6	8.5	0.3
生物資源	11.3	41.0	31.2	7.9	7.9	0.7
全学平均	10.6	44.5	28.5	7.7	8.3	0.4

(出典:平成18年度 学生生活満足度調査報告書)

データ4-12 「全体として本学の教育内容や教育方法に満足している」への回答

項目	強く思う	どちらかといえば思う	あまり思わない	全く思わない	まだ評価できない	未回答
法文	7.1	47.1	28.4	8.5	8.6	0.3
教育	3.8	39.3	38.2	9.2	9.2	0.2
医学-医	6.0	42.6	32.9	13.3	4.8	0.4
医学-看護	3.1	48.1	30.2	13.2	5.4	
総合理工	5.9	35.0	38.9	13.9	6.0	0.3
生物資源	6.0	45.1	30.3	9.9	8.3	0.5
全学平均	5.3	42.9	33.2	11.3	7.1	0.3

(出典:平成18年度 学生生活満足度調査報告書)

一方, 「学生による授業アンケート調査」においても, 学生による授業内容への満足度は相応な水準であると判断される(データ4-13)。

データ4-13 学生による授業アンケート調査による「総合的に判断してこの授業に満足している」の平均値

年次	生物資源(専門科目)	生物資源(専門基礎)	全学
H16前期	5.3	5.3	5.2
H16後期	5.4	5.4	5.3
H17前期	5.5	5.2	5.2
H17後期	5.5	5.4	5.3
H18前期	5.0	4.6	4.9
H18後期	5.2	4.9	5.0

(出典:教育方法等改善企画報告書(平成16・17年度)及び2006年度島根大学教育開発センター年報)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準にある

(判断理由) 本学部においては、学年進行に伴って学生が身に付けた学力や資質・能力が着実に増加し、客観的かつ厳格な成績評価基準の下で、4年次在籍者に対する卒業者の割合は、ほぼ一定した水準を維持している。また、学外機関が実施する試験の成績を評価するシステム、成績優秀者を3年間で卒業できるシステムが有効に機能している。さらに、教員資格をはじめとする資格取得者数も一定の水準を維持し、JABEE認定を得た教育プログラムも機能している。そして、「学生生活満足度調査報告書」や「学生による授業アンケート調査」における学生の満足度も十分な水準を維持している。以上により、取組や活動、成果の状況は良好であり、想定する関係者の期待に応えていると判断した。

分析項目Ⅴ 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 卒業(修了)後の進路の状況

(観点到に係る状況)

就職率は、平成15年度に84.3%であったものが、16年度93.5%に上昇し、17年度91.3%、18年度97.2%と高い水準を維持した。この実績は週刊「読売ウィークリー」の就職パワーのある大学学部上位リストにも掲載された。この間、毎年全学科で就職委員会主催の就職セミナーを実施している(データ5-1)。セミナーでは、民間企業、公務員に就職した卒業生や、内定をもらった在籍生を講師として、就職活動の体験談を語ってもらい質疑応答を行っている。また、平行して大学院進学セミナーも平成17年度から全学科で行っており、平成18年度には大学院進学率が7~8%増加した。

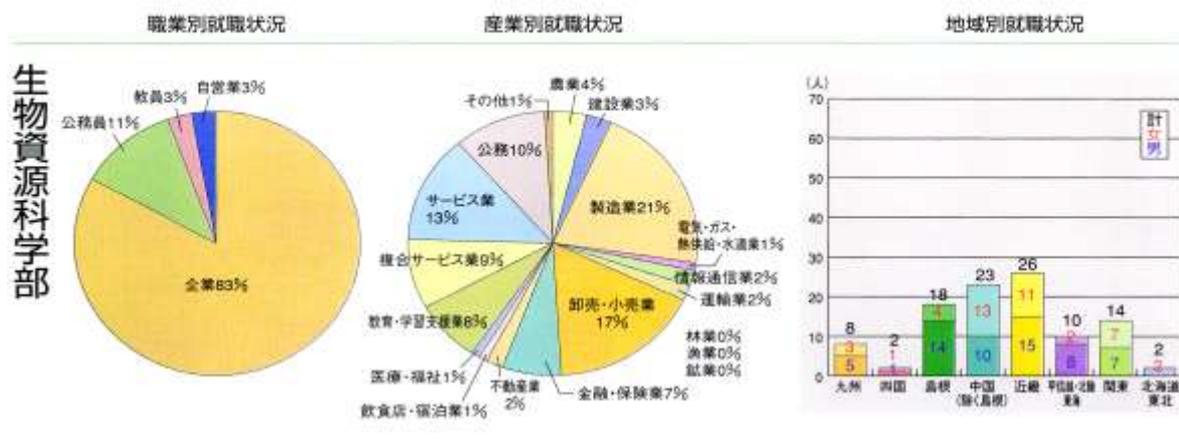
職業別就職先は3年度とも企業が圧倒的に多い。公務員は平成16年、17年度は5%、3%であったが、平成18年度は11%と増加している。また、産業別就職先では製造業、卸売・小売業が1、2位を占めていた(データ5-2)。本学部は生物資源科学分野の基礎から応用まで幅広く研鑽し問題解決能力と創造力のある人材の養成を目指しており、その進路は生物、食品、薬品、農業関係等であり、専門を生かした就職をしており、学部が養成しようとしている人材像に沿った進路・就職先になっている(データ5-3)。

データ5-1 平成18年度就職セミナー実施状況

学科/講座	実施日	実施場所	外部講師人数	学生講師		
				学部学生	大学院学生	
生物科学科	7月19日(水) 13:00~15:00	1号館2階会議室(203)	1名	1名	1名	
生物科学科(2回目)	12月6日(水) 14:00~17:00	1号館11階生物科学科会議室	2名	1名	0名	
生態環境科学科	8月4日(金) 14:00~17:00	3号館2階202講義室	4名	0名	0名	
生命工学科	9月30日(土) 13:30~15:30	1号館2階会議室(203)	2名	1名	1名	
農業生産学科	7月12日(水) 13:00~14:45	3号館2階202講義室	2名	2名	0名	
地域開発科学科	農林・資源経済学講座	12月6日(水) 18:00~	3号館2階208講義室	1名	1名	1名
	生物環境情報工学講座 (農林システム工学講座)	11月11日(土) ※両講座で合同により実施	3号館2階211講義室	2名	1名	1名
	地域環境工学講座			1名	1名	1名
計			15名	8名	5名	

(出典：生物資源科学部就職委員会資料から)

データ 5-2 平成 18 年度卒業生の就職状況



●主な就職先(平成19年3月卒業生)

鳥取県職員、長崎県職員、島根県立宍道湖自然館、島根県林業公社、独立行政法人産業技術総合研究所、独立行政法人緑資源機構、須磨水族館、鳥取いなば農協、いずも農協、あいち中央農協、塩尻市農協、新あきた農協、沖繩電力、住友林業、前田道路、大鉄工業、日本IBM、東京エレクトロンFE、三菱農機、ファイザー製薬、常盤薬品、沢井製薬、大鶴薬品工業、長谷川香料、ドンク、出雲精茶、有田園芸農場、国華園、中国銀行、大分銀行ほか

※順不同。大学院の就職先を含む

(出典：島根大学生物資源科学部パンフレット(2007年7月作成)より)

データ 5-3 生物資源科学部の最近3年間の就職先

主な就職先

生物科学科	大学等研究機関 [鳥取大学遺伝子実験施設、佐賀大学医学部、川崎医科大学]、高校および中学教員・理科 [島根県、鳥取県、広島県、岡山県、神奈川県等]、地方公務員 [鳥取県産業技術センター、米子市児童文化センター、飯南町役場]、動物関連 [須磨水族園、下関市立しものせき水族園、併京都動物検査センター、兼なかやま牧場、併伊賀の里 モクモク手づくりファーム]、製菓関連 [兼ベネシス、兼キョーリン、常盤薬品株、兼琉薬、食品関連兼大山ハム、兼セイシン、兼スイチョク、日本ゼネラルフード株、兼トーホー、兼石原水産]、日本IBM、兼スズキ自販鳥取、福岡倉庫株
生態環境科学科	島根県林業公社、東北森林管理局岩手南部森林管理事務所、京都大学フィールド科学教育研究センター、島根県立三瓶自然館、島根県立宍道湖自然館、日本シジミ研究所、島根県学校職員、日本郵政公社、アース環境サービス株、兼テレ・ワーク、兼メイテックフィルターズ、兼アコーディア・ゴルフ、兼ユニバーサル園芸社、関東マルワ産業株、沖縄電力株、兼ドンク、兼緑の家、兼宝幸、兼ケイシイシイ、兼出雲製茶
生命工学科	ファイザー製薬株、日本コーンスターチ株、新光製糖株、めく・クオリティ・プロダクツ株、長谷川香料株、東西化学産業株、大黒天物産株、兼パロー、日本海信用金庫、兼井ゲタ竹内、兼ウチダレック、兼ダイセキ、兼青木松風株、兼博多魚屋
農業生産学科	国家公務員(農林水産省)、地方公務員(島根県、山口県、岡山県)、JA(あすみ、まにわ、鳥取西部、たじま、山口中央)、サントリーフラワーズ株、兼日本チャンキー、木次乳業株、カバヤ食品株、アヲハタ株、タマネイ詐株、カネテツデリカフーズ株、デリカウィング株、兼ジョイフル、ワタミ株、シノブデリカ株、兼さんれいフーズ、フジキコーポレーション株、兼ジュンテンドー、ザクザク、兼小松屋、兼千石、兼国華園、兼緑リコー株
地域開発科学科	松江農林高等学校、警視庁、兵庫県警、JAいずも、JA雲南、JA石見銀山、JA南すおう、JA長野経済連、JA西三河、宿有機材工業株、イオン株、オリエンタル建設株、兼開門海、佐々木食品工業株、農業生産法人 桜江町桑茶生産組合、兼島根CSK、島根マツダ株、島根ヤクルト販売株、大山乳業農業協同組合、大山ハム株、兼大創産業、東亜建設工業株、トラント情報システム株、兼ナフコ、西日本旅客鉄道株、兼仁多産業、兼三井開発、三菱農機株、山崎製パン株、ヤマト運輸株、渡辺パイプ株

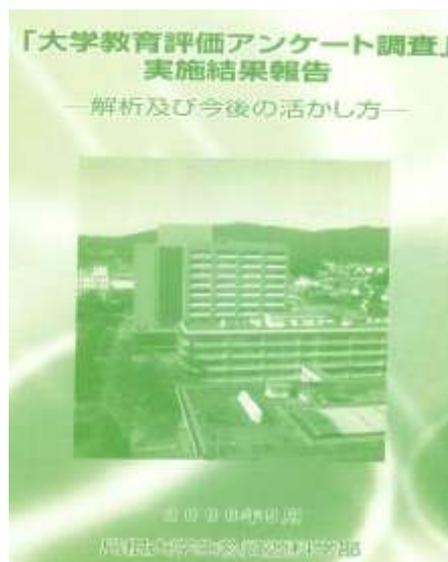
(出典：島根大学生物資源科学部パンフレット(2007年7月作成)より)

観点 関係者からの評価

(観点に係る状況)

生物資源科学部において、教育の成果・効果を検証し、教育改善を図るため、過去5年以内に社会人となった卒業生・修了生と卒業生・修了生が勤務している雇用主に対して「大学教育評価アンケート調査」を実施し報告書を取りまとめた(データ 5-4)。

データ 5-4 「大学教育評価アンケート調査」実施結果報告書



(出典：「大学教育評価アンケート調査」実施結果報告書)

内容は、責任感、コミュニケーション能力、実行力、パソコン技術、外国語能力等の多岐にわたり、学部卒業後の進路状況から判断した達成状況を調査項目とした。雇用主の評価において、責任感、熱意・誠実さ、安定した就労、敬語の項目については学部卒業生の自己評価より高かった。それに対して、リーダーシップ、外国語能力が雇用主、卒業生ともに低く、今後の学部教育の課題となった(資料 5-2-1 別添)。

また平成19年4月には島根大学キャリアセンターが「平成18年度島根大学の教育と卒業生に関するアンケート調査報告書」として、民間企業258社、官公庁26機関よりの回答を取りまとめ、教育の現状を点検・評価した。

現在、学部において少人数教育を取入れたカリキュラムを実施しているが、このような取組みが責任感、熱意・誠実さ等を醸成していると考えられ、雇用者、卒業生からの要求を汲んだものとなっている。

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準にある

(判断理由) 就職率が高い水準にある。就職先は大学で得た知識を生かしやすい分野が多い。また、公務員の就職が平成18年度には11%まで増えた。これは、授業やゼミで公務員対策を加味することもあり、功を奏したのではないかと考える。卒業生並びに卒業生の雇用主からの学部教育に対する評価も概ね良好であり、期待される水準にあると判断した。

Ⅲ 質の向上度の判断

①事例1「人件費の活用」(分析項目Ⅰ)

(質の向上があったと判断する取組)

【取り組んだ内容】

人件費の削減のため退職教員の後任補充が出来ない状況にあるが、限られた予算の中でも教員の意欲維持と適切な教員配置が組めるよう人事管理委員会を組織した。

【法人化時点及び評価時点の状況】

法人化時点では退職教員の後任不補充により教員数が大幅に減少することになっていたが、人件費を抑制しつつ87名の教員数を確保した。

【得られた成果又は改善した内容】

法人化前の教育水準を維持しながら、制定された内部昇任枠、新規採用枠により教員モチベーションがアップし、教員の若返りが図れ、年齢構成も適切な形に近づいた。

②事例2「エッセンシャルミニマムの策定と実質化」(分析項目Ⅱ)

(質の向上があったと判断する取組)

【取り組んだ内容】

平成18年度に生物資源科学部並びに学科ごとのエッセンシャルミニマムを策定した。

【得られた成果又は改善した内容】

学生の習得目標が明確になり、教育課程も学生の視点からの編成に改善された。カリキュラムが整備充実され、新たな助教の活用も行われた。

③事例3「中四国の国公立大学農学系学部相互間における単位互換制度の導入」(分析項目Ⅱ)

(質の向上があったと判断する取組)

【取り組んだ内容】

中四国の9大学が連携して取り組む里山・果樹・里海のフィールド演習プログラムに主体的に参加した。

【得られた成果又は改善した内容】

講義で得た専門知識を実質化すると共に、他大学の学生と交流し経験を広めるという学生のニーズに応えた。

④事例4「早期卒業制度の導入」(分析項目Ⅲ)

(質の向上があったと判断する取組)

【取り組んだ内容】

生物資源科学部では全学科において3年以上成績優秀者として認定を受けた学生には、早期卒業ができる制度を導入した。

【法人化時点及び評価時点の状況】

本制度は法人化と同時に導入した生物資源科学部独自の新制度である。

【得られた成果又は改善した内容】

希望する学生が導入以来数名出ており、平成18年度には農業生産学科学生1名を早期卒業者として認定した。また、生命工学科には平成20年度の早期卒業を目指す学生が1名在籍中である。学生の主体的な学習と教員のきめ細やかな指導の成果であり、学部の高い教育水準と判断できる。

⑤事例5「シラバスの利用」(分析項目Ⅲ)

(質の向上があったと判断する取組)

【取り組んだ内容】

学部では、学生委員会が中心となって学部教員に対して専門教育科目のシラバスの充実を呼びかけている。

【法人化時点及び評価時点の状況】

法人化時点ではシラバスの充実に向けた組織的な取り組みは十分に行っていなかったが、取り組みを行った結果、記載内容の充実とともに作成率も向上(平成20年4月末現在97.8%)し、学生のシラバスの利用が促進された。

【得られた成果又は改善した内容】

学生満足度調査においても70.4%の学生が利用していることが判明している。これは、毎年実施しているオリエンテーションや指導教員による授業科目選択時におけるシラバス利用を指導したことの成果であると判断できる。

⑥事例6「地域開発科学科「地域工学コース」のJABEE認定」(分析項目Ⅳ)

(質の向上があったと判断する取組)

【取り組んだ内容】

地域開発科学科「地域工学コース」ではJABEEの教育体制を整え、平成18年にJABEE認定を受けた。

【法人化時点及び評価時点の状況】

法人化時点では地域開発科学科「地域工学コース」においてJABEEの教育体制を整え、認定審査を受ける準備を行っていた。評価時点では、平成19年3月に平成16年度入学及び平成15年度入学の卒業生(平成15年度入学の既卒者を含む。)に第1回目のJABEEプログラム修了証を交付した。

【得られた成果又は改善した内容】

地域開発科学科「地域工学コース」は、平成18年度にJABEE認定された。これにより、卒業生は技術士補の資格が取得でき、技術士試験制度にあっては、一次試験合格者と同等の修習技術者として扱われる。また、ワシントンアコード加盟国においてはJABEE修了生として国際認証される。

⑦事例7「学科別就職セミナーの実施」(分析項目Ⅴ)

(質の向上があったと判断する取組)

【取り組んだ内容】

就職委員会主催の就職セミナーを実施した。

【法人化時点及び評価時点の状況】

法人化時点では就職セミナーに関しては、原則として全学のセミナーに参加する形をとっていたが、評価時点では、全学科で毎年就職セミナーを実施するようになった。

【得られた成果又は改善した内容】

平成15年度84.3%であった就職率が翌年から90%以上に向上し、平成18年度には97.2%に達した。

⑧事例 8 「大学教育評価アンケート調査の実施」(分析項目 V)

(質の向上があったと判断する取組)

【取り組んだ内容】

本学部と全学キャリアセンターで「大学教育評価アンケート調査」を卒業生及び雇用主対象に実施した。

【法人化時点及び評価時点の状況】

法人化時点ではこのような調査は皆無であった。

【得られた成果又は改善した内容】

本調査により関係者からの学部教育に対する評価が明らかになり、弱点である「リーダーシップ」、「外国語能力」に対して適切な改善策を講じることができるようになった。例えば外国語については能力別編成(農業生産学科), TOEIC の義務化(全学)等である。